

住民こそ主人公・住民のための市政を

# 明日の相模湖

No. 888

2023年3月号

発行：日本共産党相模湖支部

住所：相模原市緑区寸沢嵐794-3

宮崎あき子気付

電話：042(685)1046

mail: jcpsagamiko@gmail.com

## 60年超す原発容認

# 「安全神話」復活／

原発の運転期間について現行法では「原則40年最長60年」と定めています。しかし、先月開かれた原子力規制委員会

に基いて人と環境を守ることとが規制委員会の使命だ」と述べ、審査期間が運転期間に算定されない仕組み

会で、60年を超えた原発の運転を可能にする新たな制度案を決めました。

元日本地質学会会長の石渡明氏は「この改変は科学的・技術的な新知見

### 原発政策の大転換

依存度低減 → 最大限活用

運転期間 原則40年 (最大60年) → 60年超運転可能

新增設は想定せず → 次世代炉に建て替え

規制委員会が結論を急いだ背景には

「この改変は科学的・技術的な新知見」と話しており、原子力の安全に関わる重要案件を全会一致でなく多数決で決めたことは、規制委員会の独立性と信頼が大きく損なわれる異常事態といえます。

## 原発のない やさしい未来を



放射能から子どもたちをまもろう

日本共産党

原発推進という政治的思惑があります。岸田政権は、安全審査や司法判断で停止した期間を運転年数から除外し、60年という上限を事実上撤廃する方針を打ち出しました。関連法案を閣議決定し、今国会に提出するとしています。

共産党の笠井亮議員は2月15日の予算委員会で、反対意見を一顧だにせず、結論ありきで原発政策の大転換を強行させた岸田首相を厳しく批判。高橋千鶴子議員も予算委員会分科会で、政府方針は原発延命を求める経団連の主張と一体のものだとして、「安全性より経済優先ではないか」と指摘しています。国民の声を聞かず、説明も抜きに、原発政策の大転換を進めることは絶対に許されません。



浅春の峰山山麓  
2023.02.18 藤野 牧野

自然観察シリーズ  
NO. 556  
植 物



津久井の低山①

浅春の峰山 藤野地区牧野

冬から春は近郊の低山歩きを楽しんでいます。2月中旬、藤野の牧野地区にある峰山に

登りました。

峰山は標高五七〇Mで牧野地区のほぼ真ん中にあり、山頂に神社があり、それを囲むモミヤスギがあるので山が尖って見え、どこからでもそれと解る山です。

山頂からは南側に壁のように丹沢と道志の山がせまり、東側に石老山が眺められます。牧野地区の四方から登る事も下ることもできるので、いろんなコースを楽しめます。

山麓を歩くと、丁度土手いっぱいの方クジュソウの黄色い花が輝いていました。家々の庭のウメの香りを嗅ぎながら、車で通っただけでは気付かない景色や神社やお寺や、人々の暮らしが見られて楽しいです。

(注意)最近牧野地域の山は山蛭が発生します。山蛭の嫌いな人は11月頃から3月頃が適期です。)



各団体の作品や日頃の活動内容などが展示され、表の広場には子どもブースが設けられ、魚釣りなどを楽しんでいました。

3月5日、令和4年度の相模湖公民館まつりが行われました。

ホールでは吹奏楽、コーラス、フラダンスなどが発表され、ロビーや階段には



令和4年度 相模湖公民館まつり